

==== 会員の広場 =====

ymnet, 気象学会若手研究者ネットワークへのアンケート結果

1. はじめに

‘学会の運営にいろいろ意見のありそうな、若手代表ということで…’と気象学会評議員の大役を仰せつかったのは昨年の秋のことになります。しかし私一人の考えで若手を代表するのは心許なく思っていました。そこで新年の評議員会への出席にあたりできるだけ多くの気象学会若手研究者の意見を気象学会理事へ伝えるために、ymnetを通じて電子メールによるアンケートを実施しました（ymnetについては本誌482ページの‘情報 File’を参照して下さい）。年度末の極めて忙しい時期であるにも関わらずほんの1週間で多くの方から回答をお寄せいただくことができたのは、こうしたコンピュータネットワークならではのことだと思います。また、文章の推敲にあたってもymnetの皆様には非常にお世話になりました。ここに記して深く感謝致します。

2. アンケート結果

0) 気象学会員ですか？

会員=30, そのうち学生=19

1) 気象集誌 (JMSJ) をとっていますか？

とっている=15, 天気だけ=16

2) 学会の年会費の支出元はどこですか？

組織=2, 家計=28

3) 年会費についてどう思いますか？

高い=4, 普通=24, 安い=3

- 学生がA会員というのは経済的負担が比較的高いかも知れないが、天気だけならば普通である（同趣旨2名）。

4) 学会参加費用・旅費の支出元はどこですか？

組織=18, 家計=12

5) 学会の登録費用（大会参加費）は何円位が適正だと思いますか？

とるべきではない=6, 1,000円=11, 2,000円=7, 3,000円=2

- 気象学会の大会参加費は他学会と比べても安い方である。
 - 学会間の交流が大事な今日では、学会員以外についてもなるべく安くするべきではないだろうか。
- 6) 学会の大会は現在春秋の2回ですが、現在の形の

大会が年に1度で、もう一回が他の学会（地球物理連合）などとの合同大会になるとしたら、どう思いますか。（複数選択可）

- a. 大会を減らすのは反対だ。年に2回は必要である 12
- b. 大会は年に1回でも良いが、年に2回は集まる機会が必要である 13
- c. 他学会との合同大会は必要である 18
まず、学会大会が2回であるということについての意見は以下の通りである。

- 他大学との情報交換の場として年2回程度は必要である（同趣旨3名）。

- 学会大会の回数を減らすために発表件数を絞ることは良くない（同趣旨4名）。

- 発表の機会は気象学会だけではないので年2回というのは多い（同趣旨3名）。

また、合同大会に対する注文や期待が次の様に寄せられている。

- 2回の大会の性格分けはなんらかの形で試行してみると良い（同趣旨2名）。

- 十分に企画を練って合同大会のメリットを引き出す様にしないと単なる同時開催で事務局の負担が増えるだけになってしまうのではないかと（同趣旨4名）。

- 広く地球科学の一分野として気象学を位置づけていくためにも関係他学会とのコミュニケーションをもっととっていくべきである（同趣旨2名）。

- 複数の学会に入っている人にとっては、まとめてやってくれた方が時間的にも経済的にも楽なはずである（同趣旨2名）。

7) 天気に文章を載せたことは？ ある=13

8) 天気に文章を載せたいと思いますか？

思う=27, 思わない=3

- 集誌レベルのものを書けそうにないので載せない。

- 論文を載せたいとは思わないが、何かの報告や解説記事などはそのうちに載せたい。

9) 天気はちゃんと読んでいますか？

隅々まで=4, 目次だけ=3, さっと=23

ほとんど読まない=1

10) 気象学会 BBS を知っていますか？

知らない=6, 知っている=17

アカウントを持っている=8

11) IAMAP '93 を知っていますか？

知っている=13, abstract を出した=18

12) 気象学会は若手を大事にしていると...

思う=16, 思わない=6, わからない=9

- 大事にされ過ぎるのも良くない (同趣旨2名).
- 一般人に対するサービスは各支部で集中公開講座等を開催しているが、院生から博士取得直後くらいの人をターゲットにしたセミナー等があってもよいのではないかな.

13) 自由意見

- 気象学会において現業の人と大学研究者とが乖離せず、理学として発展する部分と工学(予知・予測)として実用に供する部分が同居していて欲しい.
- 少なからぬ会員が地球・惑星科学関連分野の複数の学会で活動していることを認知し、その活動が円滑に進むように配慮して欲しい.
- 気象データの CD-ROM 化を気象学会の力で推進できないものだろうか.
- IAMAP'93 ではテーマが必ずしも気象学・気候学全般を網羅していなくて、例えば局地気候をやっているものが発表する場がないように思える.
- 懇親会の最後で毎回のように「次回はさらに盛大に」といった挨拶がある. 幹事の「見栄」もわかるが、このままエスカレートしていくのには不安を感じる.

3. 考察

次に、アンケート結果についての個人的な感想を記します.

3.1 学会諸費用

多くの学会ではいわゆる情報誌と論文集を分離していないか、選択の余地を与えていない. しかし気象学会では「論文集をとらない」会員を認めて会費を値引いている. この処置は学術雑誌には興味のない会員や論文集を容易に閲覧できる学生への良心的な配慮であると考えられ、実際設問1の回答で天気だけをとりしていると答えた16人のうち、学生が12人を占める.

年会費の値上げと新年の会費振り込み直後であったにもかかわらず、若手の多くが気象学会の年会費は普通

であると考えている(設問3). 他の学会に所属してなくて比較の対象がない場合に「普通」と回答している例も多いようであったけれども、実際手元の資料で調べて比較した限りでは気象集誌をとらなければ年会費は普通であると考えられる.

大会の登録費用をできるだけ安くして欲しいという要望もあるが、寄付集めなどに注ぐ労力を思うと参加費用で必要な部分を賄うようにした方が良いのではないだろうか. 必要経費がはっきり示されれば多くの会員は納得することであろう. アンケート結果(設問5)を見る限り、必要とあれば2,000円程度までは支持されると予想される.

3.2 天気

天気については多くの若手がさっと目を通す程度である(設問9)が、注目されるのは天気に文章を載せたことのあるなしに関わらず(設問7)、圧倒的多数の若手が何らかの形で天気に文章を載せたいと思っていることである(設問8). しかし編集委員からの依頼原稿及び投稿論文のみが天気に掲載されていると考えている若手会員も多く、自由な投稿には敷居がやや高いようである.

3.3 春秋の大会

合同大会に関しては若手の多くが前向きにとらえているが、発表の機会が減ることに関しては大きな抵抗がある(設問6). 研究を進めつつある若手にとっては春秋の学会は重要な踏台であり、他学会との合同大会でも現在と同等の発表の機会が保証されることが望まれている.

単に同一会場で同日に行なうだけであっても、合同の学会大会を試みるわけにはいかないだろうか? 少なくとも、気象学会の学問・技術体系を必要としている学会がいくつか存在していることは事実である. 気象学会にとってこうした学会との合同大会にどの程度のメリットがあるのかが今ひとつはっきりしないことが不安の声となっているものと思われる. その意味では IAHS と合同で開催される IAMAP '93 の成否が注目される.

IAMAP '93 に関してはアンケート結果(設問11)に見る通り全員が会議の存在を知っており、半数以上が abstract を出して積極的に参加している. 若手がこうした国際学会の大会運営業務を手伝う必要も出てくるであろうが、若手研究者は今後数十年に渡って海外と協力を保つ貴重な人材であるとの観点に立ち、それにふさわしい実のある時間の費やし方ができるよう御配

慮いただきたい。

3.4 気象学会 BBS

気象学会のパソコン通信 (MSJ BBS) について認知度は高いがアカウントを持っていて実際にアクセスしている人間は多くない(設問10)。今回のアンケート対象が ymnet という計算機ネットワークを通じたグループへの参加者であることを考えると意外な結果である。おそらく ymnet で使用されている計算機が大学の研究室などにあって研究の一環として情報交換ができるのに対し、勤務時間中にパソコン通信に携わることは難しいからだろう。今後 MSJ BBS と ymnet などを含めた学術ネットワークとがうまく接続されるよ

うになればより広いコミュニティで迅速な情報交換や意見のやりとりが可能になるものと期待される。

4. おわりに

本稿は評議員会へ提出した資料を天気への投稿のため大幅に削減したものです。詳しい中身に興味を持たれた方はどうぞお気軽に筆者までお問い合わせ下さい。電子メールのアドレスは、MSJ BBS では MSJ6780, インターネットでは taikan@iis.u-tokyo.ac.jp です。

(東大生産研 沖 大幹)

1993年度秋季大会の参加費払い込み通知票について

大会参加費・懇親会費の払い込み通知票は「天気」6月号の巻末に綴じ込んであります。ご利用下さい。

気象学会 事務局

通常払込料金 加入者負担		払 込 通 知 票										通常払込料金 加入者負担		払 込 票 (
口座番号	東京 3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	金 額	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	
加入者名	日本気象学会										料 金	日本気象学会											
											払 込 金												

お 願 い

1. 払込の際、郵便局で発行する受領証(この払込票の写し)を大会当日受付に提示していただきますので、大切に保存し、当日必ず持参してください。
2. 10月14日までに払込を終えてください。

1993年
日本気象学会秋季大会事務局

この欄は、加入者あての通信にお使いください。

通 信 欄	申 込 書
	<p>1993年日本気象学会 秋季大会参加申込書</p> <p>大会参加費 会 員 ￥2,000円 学生会員 ￥1,000円 一 般 ￥2,500円</p> <p>懇 親 会 費 前 納 者 ￥5,000円 学 生 会 員 ￥4,000円 当日払い上座に ￥1,000円プラス</p> <p>合 計 ￥</p> <p>(該当事項の金額を○で囲んでください)</p>
	<p>支部名 _____ 支部</p> <p>所 属 _____</p> <p>(フリガナ) 氏 名 _____</p>

この払込通知票は、機械で使用するもので、下部の欄を汚さないよう特に御注意ください。また、本票を折り曲げたりしないでください。(郵 政 省)